



変化する I C T を活用した授業

校長 友生 雅夫

10月も残すところ10日あまりとなりました。朝、夕に秋らしさを感じるものの、昼はまだ暑さが残ります。子どもたちは、今年から11月に開催されることになった運動会に向け、ソーラン、応援団、かけっこなどの練習を頑張っています。練習後は、顔が真っ赤になっていることが多いですが、表情からは充実している様子が伝わってきます。体調を崩さず本番に臨めることを心から祈っています。

さて、これから、運動だけではなく、読書にも、学習にも最適な時期になっていきます。その中で、学習のことに触れたいと思います。ご家庭でパソコンに触れる機会はありますか。タブレットに触れる機会はありますか。わたしは、学校でも、家でもパソコンで仕事をする事が多く、タブレットを使うことはありません。保護者の皆様は、タブレットを使う機会有りますか。子どもたちは、学校では1人1台タブレットをもっています。新型コロナウイルスで思うように学習ができなくなり、タブレットの整備が進みました。わたしたちも急な導入で授業の中でどのように活用すればいいか手探りで活用を始め、研修会などに参加し、技術を高めたり、職員間で情報交換をしたりしながら少しずつ力を高めていきました。

最初は、「タブレットは文房具として、子どもたちにとにかく活用させる」ということで授業で活用させましたが、教師が考える以上に子どもの能力は高く、教師が教えないことまで活用できる子もいました。友達から刺激を受け、自分の能力を高めていく子どももあり、発見が多くありました。本校では、子どもたちが意見交換や学習の振り返りでタブレットを活用しますが、板書やノートを写真に撮り、振り返りを記入するまで、短時間でできるようになっています。I C T が得意な先生が、他の先生に教える姿もあり、ありがたく思っているところです。

次期学習指導要領の改訂に向け、昨年12月、文部科学大臣から諮問が出されました。その中で、デジタル学習基盤（G I G A スクール構想による1人1台端末やクラウド環境等のデジタル学習基盤）を活用した実践については、学校、教師ごとに活用状況に差があること、「とにかく使う」という段階から、デジタル学習基盤を活用した教科ごとの「深い学び」（教科ごとの資質・能力に資する学び）を実現する段階へと発展させていく必要があることなどが求められています。わたしを含め、ベテランの先生方にとっては、I C T（タブレット）を使いこなすことは容易なことではありません。ただ、教科の本質をとらえ、どのように指導していくかということは、多くの経験を積んでいると思います。若い先生方、中堅の先生方と協力しながら、「どのような場面」で「どのように使うこと」が子どもたちの資質・能力の育成に効果的なのか、話し合いながら授業をつくる必要があると考えます。簡単ではありませんが、日々の授業をする中で答えを見つけていきたいと思っています。